

会 議 議 事 録

会 議 名	第1回 学校関係者評価委員会	専門学校 東京工科自動車大学校
開催日時	平成26年7月2日（水） 18時～20時	
会 場	専門学校東京工科自動車大学校 123教室	
参 加 者	委員	7人 (参加者) 浅古純一・及川純一郎・田中洋子・齋藤昭男 高村 謙 (代理)・大石安孝・佐々木洋文
	事務局	5人 山口泰之・開田実・松村道隆・橋本秀哉・金澤晃男
会 議 録	<p>1. 校長あいさつ 校長代行山口より、職業実践専門課程認定の報告、ならびに H26 年度より学園組織変更（東京工科グループ）の報告がなされた。</p> <p>2. 委員の紹介、委員会成立の確認 委員の紹介および会則第 5 条の基づき、出席者が委員総数の過半の出席を満たしているため成立していることを確認した。</p> <p>3. 本日の議長について 出席者全員出席により、会議が成立する事が事務局より報告され、議長に委員長の浅古氏、書記に及川氏が選任された。</p> <p>4. 議事 ※議案説明は山口校長代行 ○第 1 号議案 ・平成 25 年度自己点検評価概要 …… [添付資料 A] 平成 25 年度自己点検評価概要を事務局（山口校長代行）が「平成 25 年度自己評価報告書」を元に概要の説明がなされ以下の委員より以下の意見が述べられた。 保護者：将来は本人が好きで選んで仕事をしてもらいたい。そのような意味でこの学校は、幅広い就職先があるのは非常に良い。 卒業生：学生のせいにならない教育に共感もてる。様々な分野に進める科をつくり、わかりやすい授業をするコマシラバスに共感もてる。自己評価の点数は、卒業した学生が示しているようなもの。 地域：毎日先生が「おはよう」の挨拶をしているのに驚いた。また、ボランティアに参加してもらえる学生とのコミュニケーションがよい。児童館での子供たちへ夢を与えてくれる。地域としては非常にありがたく思っている。基準 10 の 3. 3 は低いのでは？</p>	

企業：最近、学生のコミュニケーション能力は長けている。接客のアルバイト等の成果だと思うが、反面、やらなければいけない事ができていない。

基準7の学生募集。子供の数が少なくなり、今後の整備士不足が気になる。今年上向いたのは、特別な活動を行ったのか？

事務局：エンロールマネジメント（募集—教育—就職）を繋げている。販売会社の200店舗以上に学園案内を置いてもらっている。企業様に協力頂いてOC時、卒業生に来校頂き、リアル感ある仕事の話をしてもらっている。（ライバルは他校では無く、リアル感のある卒業生の話で、業界に興味を持たせている。

企業：入社する新人は、技術力はあるが、本当に興味があるの？交換した部品に興味を持って分解してみるような者はすくない。

卒業生：広く浅くの学生が多い。その先に何かがあるか知りたい気持ちがあれば部品を分解したくなるのでは？五感で故障探究できる事をすれば、テストの使い方も変わるのでは？

企業：東京工科卒業生が休み時間に資格試験の勉強をしている卒業生がいる。学校の教育は間違っていない。

団体：平成25年度自己点検評価報告書（P53）「卒業生の社会的評価を把握しているか？」得点が低い。卒業生の動向を調査する計画を立てる必要があるのではないかと。また、留学生への対応、同好会活動の対策、卒業生へのサービス等、具体的な対策が必要である。また、前回の教育課程編成委員会でも先生方の研修を充実する必要がある意見が出ている。他校の工夫を参考に対策を実施したらどうか？

卒業生：新人は早い段階で使えるか使えないかがわかる。（センスある？）学校で行っている先端技術は何年もかかる。業界は「即戦力」が必要。教材の工夫が必要。タイヤ交換だけの教材？評価は様々な方法で行う事ができる。（ゲーム感覚の実習）

団体：企業指導者に授業を見てもらって評価されると良いのでは？

先生が見本を示せるか？教育課程編成委員会で、授業のビデオを見た途端に、企業からの意見がでた。

企業：学生は危険か危険でないかの作業がわかるかが問題である。

卒業生：全員参加の授業にすることにより、そのような判断ができるようになる。

団体：教育事項が多くなったが、教育訓練校として「技」をもった人間を育てることが必要である。

卒業生：卒業生・地域・学生を巻き込んだ「タイヤ交換大会」のようなイベントを行い、学生の意欲を盛り上げる事が出来るのではないかと。

第1号議案 決議

第1回 学校関係者評価結果の説明および質疑を行った。出た意見に関しては次回委員会までに事務局でまとめ報告をする事とし、議事録内容について全員一致で承認された。

○第2号議案

・平成26年事業計画

平成26年度事業計画（就職・国家資格・履修指標・退学率・その他）に関して事務局(山口代行)より説明がなされた。

企業：国家資格の合格目標は100%にして欲しい。合格しなければ卒業させない位の意気込みが必要ではないか？

事務局：国家資格合格率が業績評価と結び着いている為、現実的に100%の目標設定は難しい。

団体：計画の中に、25年度評価が低い項目も入れるべきである。

第2号議案決議

上記2つの意見を加味し、平成26年度の取り組みに関して承認を得た。

以上

会議風景

